

国語科学習指導案

- 1 日 時 平成24年12月12日(水)4校時
- 2 単 元 名 自分の考えを明確に伝えよう 「平和」について考える
- 3 単元目標 ○「平和」について自分なりの意見を持ち、ほかの人の意見を参考にしたり、文章全体の構成を工夫したりしながら、説得力のある意見文を書くことができる。

関心・意欲・態度	書く	聞く・話す	言語
「平和」について興味を持ち、資料文を読んだり、友だちと関わったりしながら、自分の考えをまとめようとする。	情報収集をしながら、説得力が高まるように意見文を書く。 伝えたいことが伝わるように構成を工夫しながら書く。	場に応じた適切な言葉づかいで意見を主張する。 自分の主張や根拠と比べながら聞く。	効果的な意見文やスピーチの構成を考えている。 書き言葉と話し言葉を区別することができる。

4 「ひびき合う子どもたち」を目指すための指導の工夫

ブロッケーマ…「仲間への共感、自立する自分」

仲間と共に共感しつつ、自分の思いも大切に。新しい価値観にふれ、自分を再構築する。

研究課題…切実な問題意識を持ち、友だちと関わり合いながら学習する子どもの育成

手立て …子どもの「切実な問題」を見とった単元構想と授業づくり

(1) 単元と指導について

①単元について

『平和』について考える」は、学習指導要領5・6年「B書くこと」を受けて設定した。その目標「目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成を考えて書く」を受け、自分なりの意見文を書き、それを発信していく。内容(ア)の「目的や意図に応じて、書く事柄を収集する」を受け、意見文を書くに当たり、自分の疑問を解決したり、説得力を高めたりするために、資料を探して読む活動も組み込む。色々な立場・考え方や、友だちの考えと、自分のそれとを比べながら、「自分なりの」意見文を構築し、伝えていくことに適した単元であると考えられる。

普段の生活において、何となく主張を持っていたり伝えたいことがあったりしたとしても、それを言葉にする機会は少ない。しっかりとした根拠や説得力がないと、理解されなかったり反論されたりする可能性があることが考えられる。本単元で書く意見文は、「平和」という多くの人が望みながらなかなか実現できない題目について、自分の主張や取り組みを提言をしていくものである。今の自分にできることや主張を意見文として書く経験は、児童にとって、論理的裏付けを持って主張するために必要不可欠な学習と考えられる。

「平和」という話題は、「世界の平和」として捉えると広く掘みにくい課題であり、それについて考えや意見を持つことは簡単ではない。その一種漠然とした「平和」を、話題として選んだ理由は、大きく次の二点からである。

一つ目は、広くとらえると考える掘り所が掘みにくく、主張を持つことは難しいが、「クラスの平和」、「友達関係の平和」などのように捉えると、ぐっと自分に身近な課題としてとらえることができる話題あることが挙げられる。調べた事実と自分の考えを比べたり関連を持たせたりすることが苦手な児童であっても、自分の経験や問題意識を考える掘り所にする事ができると考える。

二つ目は、「平和」とは、一人で実現できるものではなく、たくさんの人の理解が不可欠であることである。クラス内の平和について考えた児童はクラスの友だちに、世界の平和について考えた児童は広く世界に発信する必要がある。そういった発信先を明確にすることで、相手意識を持ちながら意見文を書くことができる。

「平和」という話題を、ごく身近な問題として捉えるその足掛かりとなるのが、資料文「平和のとりでを築く」である。「人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」という一文に込められた思いに迫ることで、世界的な取り組みではなく、自分の中の小さな意識改革やごくごく小さな取り組みを積み重ねていくこと、それを広げていくことが、平和に近づくために有効であることに気付くはずである。

意見文を書く段階では、発信する内容に矛盾点があれば、読み手の理解は得られないので、自分の意見文の説得力を高める必要がある。そのことを核にして、説得力を高めるために、体験や具体例を入れる、予想される反論とそれに対する考えを入れる、自分の意見と引用を区別するといったポイントをおさえる。また、たくさんの資料を集めて読み、自分の意見と関連付けたり色々な立場や考え方があることを理解したりしながら、自分の意見の説得力を高めるよさもおさえたい。

「平和」についてじっくり考え、友達と意見を交わしたり発信したりしながら意見文を書くことを通じて、

単元終了後も、実生活において、物事を平和に解決していく姿を期待したい。また、社会科「二つの戦争とアジア・日本」、「戦争から平和へ」の学習と関連を持たせることで、日本の経験した戦争について寄り添いながら、平和な世界の構成者としての資質が高まることにも期待したい。

②指導について

本単元の学習で体験させたいこと

- ・いろいろな資料や友だちの考えに触れながら、自分なりの考えを構築する。
- ・自分なりの考えが説得力を持つように、引用を加えて文章を書く。
- ・効果的な構成や話し方を工夫しながら、自分の考えを伝える。

児童はまだ、平和そのものについて、知識が豊富であったり、真剣に考えたりした経験があるわけではない。そこでまず、現在継続している戦争の様子の資料提示をすることで、自分たちの置かれた状況と世界の状況を比較させる。その上で、「平和とは何か？」と問うことで、「平和」という言葉の捉えについて考えさせる。自分の身近な環境が平和か否か考える児童もいるであろうし、世界に広げて考える児童もいるであろう。また、そもそも「平和」とは何か、どのような状態かを考える児童もいるかもしれない。それらを目に見える形で提示し、「平和」という実感の伴わない題目を、人類にとっての課題であり自分の身近な課題であることを捉えさせたい。

子どもたちを取り巻く環境は、おおむね平和であろうが、兄弟、友だちなどとの些細な争いや、凶悪な事件、世界の情勢を思うと、「平和ではない」「何とかしたい」と感じる児童が多いであろう。社会科「戦争から平和へ」の学習内容も想起させながら、「『平和』とは何？」「平和は実現できるの？」「平和を実現したい」「『平和』のためには何ができるだろう？」といった知的な好奇心を育てていきたい。

資料文「平和のとりでを築く」については、主に「人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」という表現に込められた筆者の思いについて考えていく。そのことによって、一人ひとりの身近な行動・意識の改革の積み重ねの大切さを全体で共有したい。「平和」のためには、何も世界的で大規模な取り組みが必要なのではなく、身近な行動・意識の改革が大切であることを確認することで、平和の実現のために、「それならできそう」「自分なりの取り組みを続けよう」「それを伝えなきゃ」といった必要感・切実感を持たせたい。

自分なりの考え・取り組みを考える際は、ウェビングマップを用いて自分自身で模索したり、友だちの意見を参考にしたりしながら、仮の主張を持てるようにしていく。意見に説得力を持たせるための資料を集めたり、それを読んだりしながら、徐々により具体的な主張が持てるようになり、「平和」とは一人では成しえない題目なので、「他の人の意見を聞きたい・参考にしたい」という必要感・切実感が生まれる場面であると考える。児童相互に関わり、色々な立場のいろいろな意見を聞きながら、説得力の高い主張を固める場面に、本単元のひびき合いがみられると考える。

意見文を書くにあたっては、誰(どこ)に対して伝えるかを明確にさせる。クラスの平和を望むなら、クラスメイトに対してであろうし、世界の平和なら世界の人々に向けてということになる。それに伴って、クラス発表会や官公庁への提言、インターネットでの配信など、相手意識に基づいた発表方法を模索させたい。

説得力を高めるためのポイントとして、次の三点を確認しておく。

- ・自分の実体験や具体例を交える
- ・反論を予測し、それに対する考えを入れる
- ・自分の考えと他の人の考えを区別する

単元の終末部においては、意見文や提言をそれぞれの方法で発信するとともに、目に見える形で掲示する。単元終了後も適宜振り返り、学校生活や日常生活、今後の人生に活かされるようにしていきたい。

③本単元におけるひびき合いについて

本単元におけるひびき合いは、主に次のような過程に見られると考えられる。

- ・自分なりの「仮の主張」を持ち、友だちと意見交換しながら、より具体的な主張へと高めていく過程
- ・友だちの意見を聞きながら、自分の提言や意見文を、より説得力のあるものへと高めていく過程

自分なりの平和観を持ったり、「平和」な世の中を実現するための意見・主張を持ったりするのは簡単なことではない。「平和」とは、色々な立場、考え方、歴史などを理解したうえでなくては、説得力のある意見を持つことは難しい。その難しい問題を、クラス全体の力で解決する姿を目指す。

「クラスの平和」、「日本の平和」、「世界の平和」といった中から、自分が「何とかしたい」「自分なりに取り組みたい」平和について考えるようにすることで、その子なりの切実感を育てる。

その切実感をもとに、「仮の主張」→「より具体的な主張」→「意見文」→「説得力のある意見文」へと高めていく。そのすべての過程において、友だちとの意見交換を十分にとり、皆の力で考えを高めていけるようにする。意見交換は、場面に応じて、ペアや小グループ、全体発表などの形を適宜取り入れたい。小グループでの意見交換は、率直な意見交換を期待したい。全体での意見交換は、幅広い考えに触れ、より多角的に自分の考えと比べる姿を期待したい。その中で、意見が持てなかった児童は、少しでも意見を持ち、意見が持っていた児童は、友だちの意見を参考にして自分の意見を再構築する姿を、本単元のひびき合いと捉える。友だちの考えに触れながら自分の考えと比べたり見直したりすることで、関わりながら多面的に考えたり考えを再構築したりすることのよさが実感できるとよい。

5 単元指導計画（全17時間扱い）

次	時	学 習 活 動	主な支援・留意点【評価】
一	1 ～ 8	◆「平和」について考えをもち学習の見通しを持つ ・「平和」についてのイメージを出し合う ・『平和』のとりでを築く』を読み、「平和のとりで」の意味について考える	・写真資料提示。社会の学習を想起させる。 【関】平和について自分なりの考えをもち、その考えを伝えようとしている《発言・ノート》
二	9 ～ 12	◆平和について意見を持つ ・自分なりの平和観や意見、取り組みを考える ・仮の主張・要旨を書く ・意見の説得力を高める方法について知る ・情報収集の方法を知り、自分に必要な資料を集める ・互いに読み合い、表現や構成について助言しあう ・それぞれの方法で発表する	・子どもの感想から出た「どうすれば平和になるか」という思いを核に据えるようにする。 【関】考えをより具体的にするために、資料を探したり、友達と意見交換したりしようとしている《観察》 【書】資料を集めたり、友達と意見交換したりしながら、より具体的な考えにしている《ノート》
三	13 ～ 17	◆平和について意見文・提言を書く ・構成を工夫しながら、意見文・提言を書く ・互いに読み合い、表現や構成について助言しあう ・それぞれの方法で発表する	・「人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」に込められた筆者の思いに立ち返れるよう掲示する。 【書】具体例・根拠・予想される反論とそれに対する考え・事実と意見の区別 など工夫しながら意見文や提言を書いている《ノート》 【話】伝えるのに効果的な材料を準備して発表をする《発表会観察》 【関】話し手の意図や工夫に気づき、自分の考えと比べながら聞いている《ノート》

6 本時について

(1) 本時目標

- 聞話) 自分なりの考えをわかりやすく伝えたり、自分の考えと比べながら聞いたりする。
- 書) 資料や友達の意見を参考にしながら、自分の考えをより具体的なものにする。

(2)本時の指導について

本時は、前時までに一人ひとりが高めてきた『平和』についての思いや『平和』のための取り組みをより具体的にしていく。クラス内には、自分なりの考えが持っている児童から、考えが浮かばない、平和の実現は不可能と考えている児童まで様々である。クラス内での少人数での意見交換や全体発表を通じて多くの立場や意見に触れ、考えがある児童はより高まったり具体的になったりする姿を。考えが浮かばなかった児童は、少しでも考えが浮かぶ姿を期待したい。

(3)本時展開(12/15)

学 習 活 動	●指導上の留意点と◇評価
<p>1 前時を振り返る・本時の学習の見通しを持つ</p> <p>2 考えを交流し、自分の意見を高める</p> <p>板書イメージ</p> <p>3 次時学習の見通し</p>	<p>●前時の振り返りと学習問題の確認</p> <p>●座席表配布、クラス内の考えを把握する</p> <p>●座席表をもとに、意見を聞いてみたい児童と交流をする</p> <p>◇自分なりの考えをわかりやすく伝えたり、自分の考えと比べながら聞いたりする〈話〉</p> <p>◇資料や友達の意見を参考にしながら、自分の考えをより具体的なものにする〈書〉</p> <p>「友だちと交流して、自分の意見を高めよう」</p>

(4) 本時案 (別紙)

7 実践を終えて

<構想修正の流れ>

自分なりの実感を伴った意見文が書けるように、子どもたちの想いを捉えるようにしてきた。単元初めで「平和のとりでを築く」を切り口に考えてきたのは、「世界的な平和の実現」という話題だったように思う。しかし、「世界的平和」を真剣に考えれば考えるほど、その実現は難しく、どのようなアイデアを出したとしても、結局は、子どもたちにとっては、実現が不可能な「きれいごと」に思えてきたようである。

そんな中、「相手のことを認める」、「話し合いで解決する」、「よい所を見つける」といった平和を実現するためのアイデアは、自分たちにとってごく身近な「クラスの平和」という命題の解決とも共通すると気づき始める。子どもたちの想いは、「『世界の平和』の実現は難しいけど、『クラスの平和』ならなんとかできそう」という方向に動いた。

主に「世界の平和」について意見を持つ構想であったが、より子どもが切実感を持っている「クラスの平和」についても、ウェイトを大きくとることにした。

<切実な問題とひびき合いについて>

当時クラス内では、対人関係において問題意識を持っている児童が少なからずいた。「平和」の範疇を「クラスの平和」まで広げることで、子どもたちにとって、ぐっと身近で切実感のある問題となった。「暴力を振るわない」、「話し合いで解決する」といった、一種きれい事とも取れる意見に対し、「本当にやるの?」「できるの?」といった意見を引き出すこともできた。「自分たちが実行する」という意見文の減点にも立ち返ることができた。自分一人で考えた平和実現のための考えを、友だちの意見や考えを聞きながら、より現実味を帯びた「実行していく平和への意見」へと高めていくことができた。

<成果と課題>

子どもの素直な想いを認め広げることにより、「自分が実行していくための意見文を書く」という意識を持つことができた。また、より身近な話題にもウェイトを置くことにより、ほとんどの児童が、自分なりの意見を持ち、意見文を書くことができた。

単元終了後は、自分の意見文を何らかの形で可視化し、自分の今後の言動の規範としたかったが、それを行わなかったことが反省として残る。せつかく高まった自分なりの決意を、単元終了と共に消してしまわないように心掛けていきたい。